

みえの文化力指針（仮称）（案）

“みえけん愛”を育む社会の実現に向けて

県民しあわせプランでは、「みえけん愛を育む“しあわせ創造県”を「県民が主役となって築く」ことを基本理念としています。

この指針は、「みえけん愛」を育む社会の実現を目指して、文化の持つ力に着目し、その力を高め、生かすための政策の考え方と展開の道筋を示したものです。

三重県の今後の展望について検討したもので、県の政策を考えるとときの拠り所となるものですが、具体的には、次期戦略計画の考え方の基本に位置づけることになります。

なお、県政の運営は、県民の皆さんが主役で、協働で実施することが基本であり、この指針の考え方市・町や県民の皆さんと共有できるようにしていくことが大切です。

1 「文化力」を政策に生かす

（1）時代認識

戦後、我が国は、経済成長を最優先の目標として取り組み、大きな経済成長をとげて、便利で豊かな生活を手に入れることができました。

しかし、あまりにも効率性やスピードを求めすぎた結果、助け合いや思いやりといった人々の絆が薄れるとともに、地域の特色や独自性が失われるなど、人々の心や家庭、地域の問題といった形で、社会のひずみが顕在化してきています。

また、本格的な人口減少社会が到来し、経済が右肩上がりに発展する時代が収束するなど、時代は、成長から成熟への大きな転換期にあり、人々の価値観も、「ものの豊かさからこころの豊かさ」へと大きく変化してきています。

しかし、行政は、このような社会のひずみや、大きな時代の変化にうまく対応できていない面があります。

（2）文化の持つ力

行政は、これまで、暮らしの中の経済的な豊かさや生活の利便性を高めることに重点をおいてきましたが、これからは、生活の質、暮らしの中のしあわせ感をもっと大切にする方向に政策の重点を移す必要があります。そのため、三重県の多様で豊かな文化と文化の持つ力に着目します。

文化は、長い時間をかけて育まれてきた知恵と工夫の結晶であり、暮らしの営みの履歴ともいえるものです。この指針では、文化を、「生活の質を高めるための人々のさまざまな活動及びその成果」と広くとらえます。このようにとらえたとき、文化は、人や地域を元気にし、暮らしをより良くしていく力を持っています。

このような、文化の持つ力を「文化力」ととらえ、現代社会のひずみの解消や、実りある成熟社会の実現につなげるため、「文化力」を政策のベースに位置づけ、効率性などの経済的価値に基づく判断だけでなく、文化的な価値に着目し、経済と文化のバランスのとれた政策へと転換することが必要です。

これまでの政策が、種々の課題に対する対症療法的なものとするなら、文化力の視

点を加えることにより、中長期的に社会全体の体質を改善し、健康な社会づくりを目指すものです。

文化は、日々の暮らしを豊かにすることから世界平和への貢献まで多様な力がありますが、文化力を政策に生かすため、この指針では、人が心豊かに生きるための力（人間力）、地域の魅力や価値を高めるための力（地域力）、新しい知恵や仕組みを生み出す力（創造力）に着目します。

① 人間力

文化は、人の持つさまざまな能力を引き出し、感性を育て、現代社会で、ともしれば失いがちな人間らしさや心の豊かさを回復させることができます。このような、文化の意義に着目したとき、文化力の一側面を「人間力」としてとらえることができます。人間力は、文化が人に働きかけて人の有する潜在力を顕在化させる力と、顕在化した人間の力の双方の力であり、人が人間らしく心豊かに生きるための力です。

② 地域力

文化は、地域に暮らす人々の共通の心の拠り所となるものであり、個人が尊重され、さまざまな人が共生する地域社会の絆や精神的基盤を形づくりします。このような、文化の意義に着目したとき、文化力の一側面を「地域力」としてとらえることができます。地域力は、文化が地域に働きかけて地域の有する潜在力を顕在化させる力と、顕在化した地域の力の双方の力であり、地域の魅力や価値を高めるとともに、地域社会の絆・アイデンティティを育む力です。

③ 創造力

文化は、新しい文化を創造する基盤であり、人は多様な文化に触れて創造性を高めることができます。また、文化は、さまざまな産業において付加価値を生み出す源泉となり、新たな需要や商品・サービスを生み出すなど、創造性の高い産業活動の実現に寄与します。このような、文化の意義に着目したとき、文化力の一側面を「創造力」としてとらえることができます。創造力は、文化が人や地域の創造性に働きかけて生まれる力で、芸術文化から生活様式、産業活動にいたるまで、新しい知恵や仕組みを生み出し、変えていく力です。

2 文化力を高め、生かすための舞台づくり

(1) 文化力を政策全体のベースに

文化は、風土や歴史と深く関わるもので、一朝一夕にできるものではなく、地域の中で長い時間をかけて積み上げてきたものです。このような文化がさまざまな分野で我々の生活の豊かさを支えてきました。例えば、環境で考えた場合、「もったいない文化」が日々の暮らしの中に浸透し、共通の価値や生活様式となることによって、地域の中で資源が循環する仕組みを支えてきました。これからの豊かな地域社会を築いていくためには、伝統芸能を含む芸術文化はもとより、長期的な視点から、環境、福祉、森林、観光、人権、男女共同参画など、それぞれの分野で三重らしさを生かした文化を育てていかなければなりません。

文化力を政策全体のベースに位置づけ、文化力を高め、生かすという視点を加える

ことにより、政策を立案、実行するうえでの発想の転換を進めます。

(2) 発想の転換を進めるための基本スタンス

① 文化力を高め、生かすために、どんな発想の転換が必要になるのでしょうか。

まず、経済的な効率性だけにとらわれずに、文化の持つ多面的な力に着目することが基本になります。従って、効果、効率を考えるときには、これまでの経済的効率性などの単一の基準ではなく、多面的な価値に着目した複眼的な思考が必要になります。

例えば、棚田は、経済面だけから見ると効率性の低い農地ですが、見方を変えると貴重な地域資源になり、また、古い民家は、暗くて不便なものにとらえられがちですが、生活の積み重ねを感じさせる文化資源でもあるといったように、ものの見方を変えることにより政策のあり方も変わってきます。

また、違った価値観や文化を認め合うといった多様性を尊重するという発想も大切になります。

② では、どのようにして、発想を転換するのでしょうか。

まず、発想を転換するためには、既存の価値基準、制度、前例などにとらわれずに柔軟に考えることが必要になります。そうすると、政策を考える際の基準が相対的になってきますので、常に、「誰のために、何のために、何を目指しているのか」を問い続けるとともに、県民の視点で考えていくことが大切です。

また、文化は、県民一人ひとりの自発的な活動の中で創造され、また、多様な考え方や価値観、地域の特性や独自性のもとで育まれます。従って、県の政策を考えるときは、画一的、集権的な政策でなく、地域の多様な特色や独自性を生かすこと、多様な主体の自主的な活動を支えることを基本とする必要があります。

(3) 文化力を高め、生かすための3つのキーワード

文化力を高め、生かすためには、多様な文化ストックを発掘、活用、循環して地域の価値や魅力を高めるとともに、さまざまに交流、連携する中で新たな文化や価値の創造につなげること、そして文化や価値の多様性と調和を確保することが大切です。

① 地域の価値や魅力を高めたり、新たな知恵や技を創造するためには、これまで見過ごしがちであった、「ひと」、「もの」、「こと」といったさまざまな地域の文化ストックを発掘、活用、循環し、それが、新たな文化や価値の創造につながることを重要です。このため、「ストックの活用・循環」がキーワードになります。

② また、新しい文化や新たな価値を創造するためには、人と人、地域と地域、知恵や技などの、さまざまな交流、連携を深めることが大切であり、人と人の出会いの場やネットワークを広げ、信頼と協力の関係を築いていく必要があります。このため、「交流・連携」がキーワードになります。

③ さらに、新たな文化を創造したり、豊かな人間性を形成するためには、社会の中の多様な考え方や価値観の調和が図られ、多様な価値やお互いの違いを尊重する風土が形成されることが大切です。このため、「多様性と調和」がキーワードになります。

3 文化力で元気な三重づくりを進めます

三重には、豊かな自然や多様な歴史が育んだ文化資源があります。

日本人の精神文化の源流をなす「伊勢」、「熊野」の存在や交通の要衝の地でもある三重は、全国から人が集い、活発な交流が行われる中で、多様な文化を受け入れ、熟成し、新しい文化を育んできました。そして、来訪者に対する「もてなしのこころ」を育むとともに、俳聖松尾芭蕉、国学者本居宣長、能楽の観阿弥をはじめ、日本人の心を深く見つめてきた多くの文化人を輩出するなど、こころを大切にする伝統が息づいています。

また、古来より、「美し国（うましくに）」と称された変化に富んだ自然環境や、歴史的な背景の中で、さまざまなまちが分散して発展してきた三重は、各地域でそれぞれ個性ある多様な文化が生まれ、地域の魅力や価値を高めてきました。

さらに、豊かな物産や地理的条件を生かして活発な産業活動を展開してきた三重では、伊勢商人や御師の活動、伝統工芸の優れた職人の技、自然の力を引き出す農林水産業の工夫など、多彩な知恵と技を育んできました。

ものの見方や発想を転換する中で、これまでともすれば見過ごしがちであった、多様な文化資源を生かしながら、文化力を高め、生かして、「こころ」、「地域」、「産業」の「三つの元気」に取り組みます。

なお、人間力、地域力、創造力という文化力の三つの側面に着目しましたが、例えば、創造力が人間力を高め、人間力が結集して地域力を高め、そして、地域力が創造力を刺激するというように、この三つの力は、相互に補完、循環する関係にあり、総合的に文化力を高め、生かすことが大切です。

（1）文化力でこころを元気に

人は、さまざまな場面で充実感や生きる喜び、生きがいを感じ取るなど、心豊かに生きる中で、こころを元気にすることができます。

人間らしく心豊かに生きるためには、人それぞれの夢の実現に向けて、その制約となる要因を取り除き、一人ひとりの潜在する能力を開花させることが基本になります。

夢を描くためには、多様な選択ができたり、何度もチャレンジできることや、本物に触れ、感性を高めたり、心のゆとりを回復できることが重要です。

また、人それぞれが持つ潜在的な能力を開花させるためには、いつでも、誰でも学べることが大切です。

さらに、能力の発揮を阻害するさまざまな要因を取り除くためには、一人ひとりが個として尊重され、誰もが社会に参画できるようにすることが重要です。

そういった発想を入れながら、県民の皆さんが活動する舞台づくりを行うことにより、人間力が高まって、生きる喜びや生きがいを感じられ、「こころが元気に」なるよう取り組みます。

（2）文化力で地域を元気に

地域の魅力や価値を高めたり、地域社会の絆、アイデンティティが育まれる中で、地域社会が活性化され、地域の元気につながります。

地域力を高めるためには、地域の「ひと」、「もの」、「こと」といったさまざまな資

源を活用することや、地域内での経済・資源の循環を進めること、人と人のつながりを広げることが基本になります。

地域の歴史、伝統、自然などの文化ストックは、「時の積み重ね」の中で育まれてきたものであり、そこにしかない地域の誇りとして活用し、地域の価値やアイデンティティを高めることが大切です。

また、人材、資金、ノウハウ、食材などの地域資源を循環、活用し、安全、安心の地域密着・生活密着型のサービスを提供することにより、地域経済の自立性、持続性を高めることが重要です。

さらに、地域の持つ潜在的な力や創造力を向上させ、地域社会の課題解決能力を高めるため、人と人の出会いやネットワークを拡げることが大切です。

そういった発想を入れながら、地域の皆さんが活動する舞台づくりを行い、自立、持続可能な地域づくりを進めることにより、「地域が元気に」なるよう取り組みます。

(3) 文化力で産業を元気に

産業を元気にするためには、創造力を生かして、地域の様々な資源を活用し、付加価値を高めることが大切です。

創造力を高めるためには、先人の知恵、生活の知恵、先端科学の知恵、熟練の技など、さまざまな知恵のネットワークを形成することが基本になります。

工業社会から知識情報社会へと産業構造の変化が加速し、様々な知恵やアイデアを生かして付加価値の高い商品、サービスを提供することが競争力の源泉になってきています。地域の農林水産業から先端産業まで、業種や地域を越えて、人の交流、ネットワークを拡充し、新しい知恵や独自の知恵を生み出すことが重要です。

また、創造力を高め、人間の持つ多様な能力を引き出すため、さまざまな分野の知恵や情報が交流する知的拠点の充実が大切です。

そういった発想を入れながら、活発な産業活動が行われる舞台づくりを進めることにより、新しい知恵や独自の知恵を生かした新たな商品・サービスが生み出され、「産業が元気に」なるよう取り組みます。

4 歴史と文化のいきづく「三重の未来」

三重の豊かな文化資源を活用して、文化力を高め、生かして、「こころ」、「地域」、「産業」の「三つの元気」に取り組むことにより、歴史と文化のいきづく「三重の未来」として、「こころのふるさと三重」、「暮らしを楽しむ三重」、「知恵が響きあう三重」を目指します。

① こころのふるさと三重

こころの故郷ともいえる伊勢・熊野、山から川、海へと続く日本の原風景など、先人達から受け継がれてきた郷土の自然や歴史、文化などを誇りに思い、愛し、さらに良くしていこうとする心が育まれています。

多様な自然・文化体験により豊かな感性が生まれ、こころを大切に考える風土が根つき、住む人にとっても訪れる人にとっても、幸せや忘れかけていた大切なことを見つけ、心の豊かさを取り戻すことのできる、「こころのふるさと三重」を目指し

ます。

② 暮らしを楽しむ三重

都市と田園地帯が隣り合い、豊かな自然に身近に触れ合えるとともに、関西・中部の高次都市機能も利用できるという恵まれた生活空間の中で、県民一人ひとりがゆとりある時間・空間を創造しています。

そして、人と人、地域と地域の絆が生まれ、連帯感や思いやりにあふれ、信頼と助け合いの人間関係が心豊かな地域社会を支えています。

お互い様の気持ちで支え合いながら、土地の食材を生かした料理や、健康づくり、環境に優しい暮らし方など、自分らしい生き方を楽しめる、誰もが多様な「暮らしを楽しむ三重」を目指します。

③ 知恵が響きあう三重

各地域や都市の特徴を生かして育まれた、地域それぞれの多彩な知恵や技、伝統工芸などが、地域の人に愛され、生かされ、次世代に引き継がれています。

さまざまな知恵が交流、連携し、古いものを大切にしながらパッチワークのようにさまざまなものを組み合わせて、常に新しい価値や魅力を生み出していく、「知恵が響きあう三重」を目指します。

